

平成24年度 事業報告



「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる
人材の養成を行う



学生ひとりひとりの能力を
最大限に伸ばすために教職員
が一致団結して教育にあたり、
学生の満足度を高められるよ
う、また地域との関わりを深め、

存在感を高められるように努力しました。

具体的には、

1. 本年度、4年間の大学運営に関する中期目標を定め、実現のために努力しました。
2. 危機管理学部の動物・環境システム学科を環境危機管理学科と動物危機管理学科とに再編して新生を受け入れました。
3. 初年次学生の教育を、学部の壁を取り除いて、全学を挙げて効果的に行えるように変更しました。
4. ボランティアセンターを設置して、災害発生時に直ちに対応できる体制を作ります。
5. 銚子のすぐれた地質遺産を「銚子ジオパーク」として、世界および日本ジオパーク登録を目指す事業を支援しました。

この他、第3の学部として、看護学部を平成26年度の設置を目指し、平成25年5月に申請します。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教学の充実

■大学の目的、各研究科、各学部の目的

学園建学の理念に基づき、大学の目的を教育では『健康で安全・安心な社会の構築』に寄与できる人材の育成、研究では『健康で安全・安心な社会の構築』の探求、社会貢献では‘地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画’と定め、行っています。

各研究科各専攻においては教育研究上の目的をそれぞれ定め、各学部各学科もそれぞれ教育目標を設けて、達成に向かって邁進しました。

■CISフォーラム

1 1月24日（土）銚子商工会議所にて、最新の研究成果やシーズを紹介するイベントを初めて開催しました。2学部7学科から、教員14名と学生9名が発表者として参加し、150名を上回る来場者がありました。

■高大連携

- 1) 7月7日に敬愛大学八日市場高等学校の自然科学部員13名が「中高生の科学部活動振興プログラム」としてトウキョウサンショウウオのミトコンドリアDNA解析実習に取り組みました。
- 2) 10月22日に県立銚子高校の1年生約200名が大学を訪れ、模擬講義を受けました。

平成25年度に向けて

平成25年度より危機管理学部の航空・輸送安全学科の名称変更を行いました。

平成25年度
危機管理学部

平成24年度

工学技術危機管理学科 ← 航空・輸送安全学科

地域連携・社会貢献

■銚子ジオパーク

銚子市にある屏風ヶ浦の地層、犬吠埼の浅海堆積物などの優れた貴重な地質遺産を後世に残すと共に観光資源としても活用し、地域住民の郷土愛の育成、環境意識の向上、地元の中学生への良質な地学教育の提供等、銚子市と協力して銚子ジオパーク構想を推進致しました。その結果として、平成24年9月24日にジオパークに認定されました。

この構想を通して地元の中学生・高校生に地元の地質資源の理解及び普及活動を行い「地育地就」にも貢献しました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施しました。

■市民公開講座の開催

これまでの図書館公開講座（図書館主催）を大学主催の公開講座とし、銚子市及び銚子市教育委員会の後援を頂き規模を拡大して開催しました。

○第1回 10月4日（日）

「自然からの贈り物」—医薬品に利用される身近な植物たち— （参加者79名）

○第2回 11月18日（日）

肥満がなくても「メタボリックシンドローム？」

（参加者80名）

○第3回 1月12日（土）

「地球温暖化を考える」—環境危機管理の視点から— （参加者51名）

○第4回 2月24日（日）

身近なくすりの飲み方、飲み合わせ

（参加者134名）

■銚子市消防団実戦操法大会

7月1日（日）、千葉科学大学マリーナキャンパス前駐車場で開催されました。日頃の訓練の成果を学生消防隊が披露しました。

■青少年のための科学の祭典への参加

茨城県内の小中学生を中心としたイベントである『青少年のための科学の祭典』に参加しました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

現在17校との協定を結んでいます。新たに東総地区の高校との提携を手始めとして、東日本の受験実績が継続している指定校との教育提携を強化しました。また、現在締結している提携校に対しては、出張講義、オープンキャンパスは勿論、PTA総会等への働きかけも行いました。また、入学式・卒業式などお互いの学校行事に教職員が参加し合える体制を作りました。

■ボランティア活動

1) 巨大竜巻の被害を受けたつくば市北条地区に災害ボランティアとして「学生消防隊」と「スターラビッツ」ら学生24名、学生OB・職員5名が瓦礫などの片づけを行いました。

2) 昨年に引き続き災害ボランティアが2回にわたり、岩手県沿岸部で瓦礫の撤去、福祉施設での交流、草刈りなど多岐に渡る活動に従事しました。

就職活動支援

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏季休暇中に1～2週間の就業体験を実施しました。

■合同企業説明会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同企業説明会を2回（12月、2月）学内で開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えていきました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、筆記試験合格者に対して、面接対策セミナーを実施しました。

業者主催公務員模擬試験を学内で実施しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者、秘書検定、潜水士などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催の企業懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

学生支援

■心の教育

7月5日（木）に実験動物慰霊祭が行われました。実験のために尊い犠牲となった動物の御霊に対して、参加者全員による献花を行いました。

■千葉県、茨城県の通学圏の高校に対するスクールバスの運行

今年度は、鹿島神宮（茨城）一本学間（利根川北側）に加え、北総地区の佐原一本学間（利根川南側）のスクールバスの運行を開始しました。

■県人会の発足

学友会に県人会を組織したことに伴い、県人会に各県担当者を配置し、在学生、出身校との関係を強化し、顔の見える広報活動、高大一貫した教育活動につなげていけるよう努めました。

■入学前教育

入学前に合格者やその保護者を集い、ミニキャンパスツアーを開催しました。大学の案内や質疑応答をおこない、入学前の不安解消と本学への理解の促進に努めました。

広報に関すること

日本初の危機管理学部を擁することを強みに、

『人を助けたい、という人の大学』をキャッチフレーズに両学部をアピール、また消防官、警察官など公務員に強い大学であることも強調して、学生募集を行いました。

- (1) オープンキャンパス
- (2) e-広報の充実
- (3) 支局長による広報活動の強化
- (4) 留学生の募集充実
- (5) 常時学内を見学
- (6) 地元の各種団体との連携
- (7) 出張講義の拡大と内容の充実

人事関係

■副学長の変更

宮林正恭氏に代わり吉川泰弘氏及び伊永隆史氏が副学長に就任しました。(平成24年4月1日)

■学部長の変更

濱名洋氏に代わり細川正清氏が薬学部長に、藤谷登氏に代わり坂本尚史氏が危機管理学部長に就任しました。(平成24年4月1日)

■ボランティアセンター設置

ボランティアセンターを立ち上げ、当該センター長に藤谷登氏が就任しました。
(平成24年4月1日)

主な行事

4月 2日	在学学生前期オリエンテーション
4月 7日	入学宣誓式
6月 3日	オープンキャンパス
7月28日 ～29日	オープンキャンパス
7月25日 ～8月 7日	前期定期試験
8月 4日 ～ 8日	教員免許状更新講習会
8月25日	オープンキャンパス
9月 8日	教育進路懇談会 (地方)
9月15日	教育進路懇談会 (本学)
9月18日	後期オリエンテーション
9月30日	オープンキャンパス
11月17日 ～ 18日	青澄祭 (大学祭)
11月23日	CIS7フォーラム
12月15日	合同企業説明会
1月22日 ～2月 4日	後期定期試験
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成24年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※			
			留学生	社会人		留学生	社会人				
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	1	0	0	3	1	0	0		
	薬学研究科（博士）	5	0	0	0	15	5	0	0		
	薬学研究科（修士）	10	4	0	0	20	14	0	0		
	危機管理学研究科（博士）	3	0	0	0	9	2	0	0		
	危機管理学研究科（修士）	5	3	1	0	10	11	5	0		
	大学院 計	26	8	1	0	57	33	5	0		
学 部	薬学科（6年制）	120	81	3	0	920	644	13	4	0	
	薬科学科 (募集停止)	—	—	—	—	40	27	0	0	0	
	動物生命薬科学科 (募集停止)	—	—	—	—	40	24	0	0	0	
	生命薬科学科	40	18	0	0	140	72	2	0	0	
	計	160	99	3	0	1,140	767	15	4	0	
	危 機 管 理 学 部	防災システム学科 (募集停止)	—	—	—	—	0	4	1	0	0
		環境安全システム学科 (募集停止)	—	—	—	—	0	3	1	0	0
		危機管理システム学科	100	113	30	0	405	397	107	0	0
		動物・環境システム学 (募集停止)	—	—	—	—	190	126	14	0	0
		環境危機管理学科	40	40	4	0	40	40	4	0	0
医療危機管理学科		80	100	0	0	350	340	0	0	0	
航空・輸送安全学科		40	7	0	0	125	39	9	0	0	
動物危機管理学科		40	41	0	0	40	41	0	0	0	
計	300	301	34	0	1,150	990	136	0	0		
学部 計	460	400	37	0	2,290	1,757	151	4	0		
総 合 計	486	408	38	0	2,347	1,790	156	4	0		
留学生別科	40	12	12	0	40	15	15	0	0		

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成24年5月2日～平成25年3月31日)に入学した者です (単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成24年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	15	12	10	83%	2	3	0	4
学部	371	291	264	91%	12	65	36	66

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在) (単位:人)

主な就職先	クオール、クラフト、くすりの福太郎、日本ペーパークリーン、杏林製薬、戸田中央医科グループ、東京消防庁、横浜消防局、警視庁、千葉県警察本部、神栖市役所、三井住友銀行、国立がん研究センター、板橋中央総合病院他
-------	--

■教職員数

(平成24年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	2	54	20	13	11	3	1	105	52

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	24年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	2,811,139	2,741,435
補助金収入	392,268	695,499
その他収入	111,868	205,645
帰属収入合計	3,315,275	3,642,579
基本金組入額合計	△ 63,991	△ 15,635
消費収入の部合計	3,251,284	3,626,944
人件費	1,796,030	2,244,762
教育研究経費	1,316,251	1,515,771
管理経費	394,436	466,870
その他支出	1,109	22,239
消費支出の部合計	3,507,826	4,249,642

■施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
創設図書	700
航空輸送安全学科創設事業年次進行分	
創設備品	1,000
航空輸送安全学科創設事業年次進行分	
プロジェクター設置 1号館・5号館講義室	3,700
プレハブ倉庫	500
ボランティアセンター用具収納	
銚子ジオパーク看板設置	1,500
医療危機管理学科実験実習用機器	3,203
ガス給湯設備設置他改修工事	1,600
大学院東京サテライト教室用机・椅子	950
FRIGO-Mクローラロボット (補助内定額：2,039)	5,985